

かさまつ応援寄附金（ふるさと納税）活用実績報告書

外国人による英語指導は、生きた英語を体験的に学習するだけでなく、今後の国際社会に対応できる人格形成を支援するため、中学校専任並びに小学校・保育所等の専任の2名が授業を行っています。



現代の情報社会に強い児童生徒を育てられるよう、文部科学省が示すICT環境整備目標水準に向け、3年計画で整備を進め、本年度は、電子黒板・タブレット型ノートパソコンなどを小中学校の全教室に配備しました。

子どもたちの笑顔があふれる教育環境を整えました

笠松町長 広江 正明

毎年全国の皆様から温かい応援をいただき、平成27年度には**5,716件**、**総額51,855,050円**のご寄附をいただきました。本当にありがとうございます。

ここ笠松町は、約22,500人が暮らす閑静な住宅街が広がる街です。ここには3つの小学校と1つの中学校があり、あわせて約1,800人の児童生徒が学んでいます。その子どもたちが、これからの街を支える大きな「宝」であるとの思いから、皆様からのご寄附を学習環境の整備を目的とした電子黒板をはじめとしたICT機器整備による「情報教育ネットワーク事業」と、国際色豊かな子どもたちに成長することを願い外国人英語指導による「特色ある教育活動推進事業」に活用しましたので、ご報告させていただきます。

「清流木曾川に抱かれた“ひと・まち・自然”輝く創造文化都市」の実現に向け、また皆様の“もうひとつのふるさと”笠松町への変わらぬ応援をいただけるよう、誠心誠意努力いたす所存でありますの、どうぞ、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年10月

1. かさまつ応援寄附金（ふるさと納税）の状況

年度	合計		うち県内の皆様		うち県外の皆様		基金利息 (円)
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
H20	20	605,000	17	515,000	3	90,000	—
H21	14	347,888	13	322,888	1	25,000	1,512
H22	85	1,673,001	15	303,000	70	1,370,001	668
H23	110	1,395,140	26	425,140	84	970,000	791
H24	464	5,000,998	62	1,029,443	402	3,971,555	1,002
H25	3,550	29,058,245	148	1,737,000	3,402	27,321,245	2,256
H26	5,022	36,931,001	238	2,134,000	4,784	34,797,001	72,517
H27	5,716	51,855,050	337	4,110,000	5,379	47,745,050	98,699
計	14,981	126,866,323	856	10,576,471	14,125	116,289,852	177,445

平成26年度活用事業 「笠松町公共施設巡回町民バス」購入事業 34,487,480円
 平成27年度活用事業 「街路灯(LED防犯灯)」購入事業 16,036,920円
平成27年度末「かさまつ応援基金」現在高 76,519,368円

図1：寄附件数・寄附金額の推移

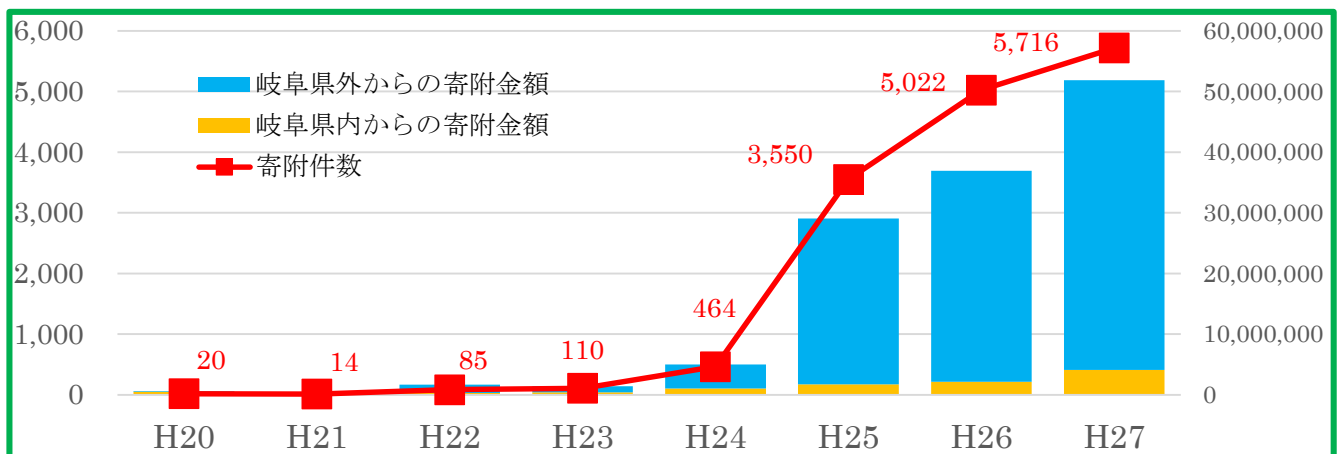
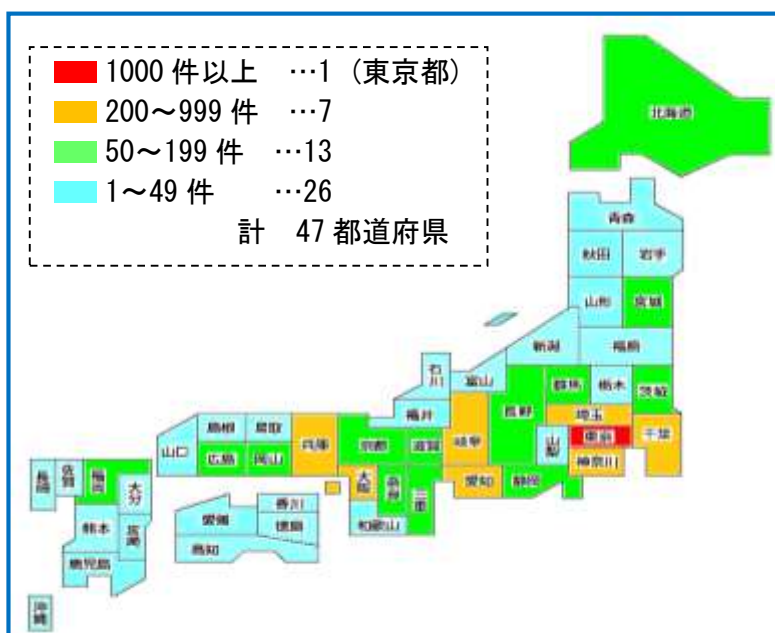


図2：平成27年度 都道府県別寄附状況



笠松町は、平成20年に「かさまつ応援基金条例」を制定し、皆様からいただいた寄附金をこの基金に積み立てて毎年新たな事業に活用しています。

また、地元高校生発案のアイデアを取り入れ、地元事業者とともに“産学官”で取り組むパートナー事業では、ご寄附いただいた皆様に感謝の気持ち「ふるさとかさまつ宅配便」をお届けしておりますが、平成27年度までの8年間の累計で、【20,824個】のお礼の品を、全国の皆様にお届けすることができました。

2. 平成28年度活用事業の概要

(1) 「情報教育ネットワーク事業」の概要



学校名	電子黒板類	タブレット端末類
笠松小学校	13	13
松枝小学校	24	24
下羽栗小学校	15	15
笠松中学校	24	24
計	76	76

電子黒板機能付き液晶プロジェクターとともに整備したマグネットスクリーンは、従来の黒板に貼り付けることができるため、授業にあわせた活用ができます。

また、これらの機器に接続するタブレット型ノートパソコンに、教育用ソフトを組み込むことで、円滑な授業が実施できます。

(2) 「特色ある教育活動推進事業」の概要

外国語指導助手（ALT=Assistant Language Teacher）は2名配置し、中学校専任と小学校・保育所等専任が各1名ずつ、各学校の授業計画にあわせて年間202日勤務しています。

なお、3つの保育所(笠松保育園、松枝保育所、下羽栗保育所)での授業は、月1回実施しています。



(3) 事業財源は、すべて「かさまつ応援寄附金(ふるさと納税)」を活用します。

「情報教育ネットワーク事業」は、5年間の長期リース契約を結び、平成28年度分は小中学校あわせて約9,000,000円を、また、「特色ある教育活動推進事業」には、約11,500,000円を支出予定です。

教科指導におけるICTの活用

笠松小学校教諭 野田 一江

ICTが導入されたことで、教材作成等の準備の時間が減り、その分、個別指導等子どもに直接向き合える時間が増えたことや、授業に対する子ども達の意欲の高まりを実感しています。提示装置を使えば、教科書の問題を瞬時に大きく映し出すことができますし、「立体」や「かさ」の増減等、頭ではイメージしにくいことも、動画により、分かりやすく説明することができます。また、タブレット端末で子ども達のノートを写真に撮り、その場で映し出して考えの交流をしたり、クイズ形式で問題に取り組んだりでき、楽しく授業を行っています。「次は自分の考えを映してもらいたい。」と、一生懸命考えを書く姿も増え、学習意欲の向上にもつながっています。ICTを活用することで、分かりやすく楽しい授業ができると同時に、板書や準備にかかる時間が短縮された分、子ども達が問題に取り組む時間を増やすことができ、時間が足りなくて解けずに終わっていた子も、分かるまで粘り強く頑張る姿が増え、「できた」「わかった」という声が多く聞かれるようになりました。このように、教育環境が整った学校で授業ができることを大変うれしく思います。

授業を楽しむ“まほうの機械”



まほうの機械のおかげで、授業が楽しくなったと機器を取り囲む尾藤さん（写真左下）と仲間たち

笠松小学校5年 尾藤 天音

デジタル教科書は、授業をクラスの全員が分かりやすく受けることができるすごい機械です。わたしは、この機械を「まほうの道具」じゃないかと思います。なぜなら、授業がわかりやすくなるだけでなく、楽しくなるからです。わたしは4年生のころ社会の授業があまり好きではありませんでした。でも、5年生になってデジタル教科書を使うことで、教科書だけでは分かりにくいところも動画を見てわかりやすくなるし、グラフや表でも1回ですべてが分かるより、昔から今までどうなっているか考えることができるようになり、ひとつずつ見ていくほうがしっかり覚えることができ、楽しむことができます。こういうことができる機械なのでまほうのように思えます。

この機械をもっと授業で使っていき、授業が好きな子も嫌いな子も楽しめるようになればいいなと思います。

ふるさと納税未来大賞に輝きました

このたび、笠松町のふるさと納税の取り組みが「ふるさと納税未来大賞」に輝きました。

この未来大賞は、ふるさとの創造に向け地方自治の新しいモデルづくりを進める「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」が、「ふるさと納税」を通じて、寄附された方と自治体を結ぶ積極的な取り組みで、他の自治体のモデルになる取り組みを行った自治体に感謝を込めて贈られる賞で、全国5団体のひとつに笠松町が選ばれたものです。

笠松町では、平成20年から県内市町村に先駆けて「ふるさと納税」に取り組み、特にご寄付いただいた皆様に感謝の気持ちを込めてお届けするお礼の品「ふるさとかさまつ宅配便」が全国から注目を集めるようになりました。広告代を一切かけない事業展開で、毎年多くの皆様からの応援をいただけるようになりました。その取り組みを知った岐阜県立岐阜工業高等学校デザイン工学科の生徒が、お礼の品に共通するマークを考案され、昨年8月、お礼の品を提供するパートナー事業者にマークを披露し「笠松町を応援していただく全国のかたに、このデザインに込めた私たちからの感謝の想いも一緒に届けてほしい」と訴えました。そして、現在ではお贈りするお礼の品すべてに、このマークが貼られています。

このような産学官の連携した取り組みが、このたびの受賞につながりました。

応援いただく全国の皆様に、受賞を報告できることが大変嬉しく、改めて感謝申し上げます。



受賞を報告する広江正明笠松町長